

総合安全保障研究科前期課程第16期学生 選抜筆記試験問題

国際関係論

次の2問に答えよ。

問1 グローバリゼーションが兵器の拡散とテロの脅威に及ぼす影響について論ぜよ。

問2 冷戦期における大国間関係（米ソ・米中関係）の変化を任意に挙げ、それが米国との同盟関係を持つ国にいかなる安全保障上の問題を提起したのかについて述べられたい。

国際政治史

次の2問に答えよ。

問1 1920年代の東アジアにおける日本、中国、イギリス、アメリカの動きに注目しながら、ワシントン体制が追求しようとした安定が損なわれていった要因について論じなさい。

問2 キューバ・ミサイル危機について、その背景と原因、その経緯と結末、そしてその後の国際政治への影響を論じなさい。

公共経済学

次の2問に答えよ。

問1 国連平和維持活動とその財政について、公共財理論にもとづき論じなさい。

問2 わが国の財政の持続可能性について述べながら、財政再建の具体的な方策について論じなさい。

憲 法

次の2問に答えよ。

- 問1 「陸海空軍その他の戦力」の保持を禁ずる日本国憲法には、統帥権（あるいは統帥権者）に関する規定が存在しない。これにより、内閣総理大臣が自衛隊を指揮監督するに際して、部隊運用上あるいは文民統制上、不都合が生じると考えられるか、何ら不都合が生じることはないと考えられるか、論じなさい。
- 問2 日本では、安全保障問題における憲法判例法の形成において、裁判所の果たす役割が限られている。その理由を、日本の憲法訴訟制度に内在する制度的制約の観点から説明しなさい。

国 際 法

次の2問に答えよ。

- 問1 国際義務違反の法的効果について論ぜよ。
- 問2 国際犯罪の取締りに関する国際法の枠組みについて論じなさい。

組織管理論

次の2問に答えよ。

問1 組織（論）の中心的問いは、不確実性をどのように処理するかという問題に関わっている。トンプソン（Thompson, 1967）によれば、不確実性の主要な発生源は、テクノロジーと環境にあるとされている。

それでは、「想定外」と言われる事象に対し、組織はどのように対処するのか、あるいは対処し得ないのか。想定外と組織の論理について、自己の所説を可能な限り詳細に述べよ。

問2 組織における業務の内容を、タイプA（失敗を繰り返しても大きな支障はないが、ときどき極めて大きな成果をあげることが期待される業務）と、タイプB（飛びぬけて優秀な成果をあげる必要はないが、決して致命的なミスをおかしてはならず、安全性・確実性が求められる業務）とに2項対立させて比較するとき、それぞれのタイプの業務遂行においてうまく機能すると思われる組織特性（リーダーシップ・スタイル、メンバーの行動特性、人事・報奨制度、組織構造、組織文化など）について議論しなさい。

論述にあたっては、関係する理論・学説についてできるだけ多く言及し、具体例を豊富に挙げるとともに、結論の根拠を明確に示して、平易な文章でわかりやすく説明すること。

行政学

次の2問に答えよ。

問1 政府が提供する政策を評価する代表的な指標として「能率性」と「有効性」がある。それぞれについて説明し、さらにそれらを用いて政策評価を行う場合にどのような問題があるのかについて論じなさい。

問2 財政の観点から、日本の中央と地方の関係の特徴と変遷について論じなさい。